

令和6(2024)年度家庭教育支援プログラム指導者研修②実施報告

実施日：令和6(2024)年7月10日(水)

○ 事例発表・演習「親学習プログラムの実際」

鹿沼市 家庭教育オピニオンリーダーせせらぎ会
日光市 親学習チーム日光

県内で家庭教育支援を行っている、鹿沼市家庭教育オピニオンリーダーせせらぎ会、日光市親学習チーム日光に事例発表及び演習をしていただきました。

事例発表から、未就園児・未就学児の保護者向けの支援、小・中学校の家庭教育学級、特別支援学校や高等学校の保護者交流会など、様々な機会においてファシリテーターの個性や持ち味を生かした活動を行っていることが分かりました。

演習では、鹿沼市家庭教育オピニオンリーダーせせらぎ会の皆様に、未就学児の保護者向けのプログラムを、日光市親学習チーム日光の皆様に、中学校新入生の保護者向けのプログラムを行っていただきました。ジャンケンを使ったアイスブレイクや「自己自己紹介」などで受講者の緊張が和らぎ、活動意欲を喚起するためのファシリテーターの言葉かけにより、安心して楽しくプログラムを体験しました。

受講者は、事例発表と演習を通して、それぞれの団体が普段行っている活動について知るとともに、ファシリテーターがプログラムをどのように進めているか、どのような言葉かけをしているかということが分かり、研修終了後の活動をイメージすることもできたようです。



○ 説明・演習「ファシリテーターの4つのスキル、成人の学びについて」

総合教育センター職員

家庭教育支援プログラムの主な対象が保護者であることから、はじめに、成人期にある「学習者」の特長や、成人の特性に配慮した学習プログラムについて学びました。成人の特性に配慮した学習プログラムとして、参加型学習が適していること、

次に、家庭教育支援プログラムをファシリテートする際の基本的な4つのスキル（場のデザインスキル、対人関係のスキル、構造化のスキル、合意形成のスキル）について、演習を交えた説明がありました。

受講者は、説明と演習を通して、ファシリテーターとしての基礎的なスキルについて学ぶことができました。

○ 演習「よりよい関係づくりを促すワーク（アイスブレイク）体験」

河内教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 森 美佑紀
芳賀教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 柴 美幸
下都賀教育事務所ふれあい学習課 社会教育主事 河原 千枝
塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課 副主幹 高瀬 志穂美
那須教育事務所ふれあい学習課 副主幹 室井 雅史

家庭教育支援プログラムの導入時に行う「アイスブレイク」の演習を行いました。始めにその効果や意義について確認した後、インシヤル自己紹介やバースデーライン、ナインドット等、教育事務所職員の円滑なファシリテートのもとで、様々なアイスブレイクを体験しました。

受講者は、演習を通して自分たちの学ぶ場の雰囲気が和らぐ様子を実感するとともに、各活動の効果や特徴、より効果を高めるためのファシリテートのポイント等、様々な気づきを得ていました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・ファシリテーターとして活動するにあたり、笑顔で参加者の心をほぐすアイスブレイクの大切さを知りました。
- ・ファシリテーターをされる方の日頃の努力、研鑽があってこそ、家庭教育支援プログラムが成り立っていることが分かりました。
- ・安心感の共有、不安・悩みの共有などをするだけで、来てよかったと参加者に思ってもらえることが分かってよかったです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp